

## 勿凝学問 350

民主党の年金案ってのは、2005年7月22日に社会保険方式になったんだぞ  
何人の民主党議員が分かっているのか知らないけどな

2011年1月23日  
慶應義塾大学 商学部  
教授 権丈善一

メールが届く。

- > いや、とにかく「税方式で未納問題が★解決する★」という各紙の表現が違和感
- > があるのですね、私は。縮めれば、それで間違いではないでしょうが、現時点で生
- > じている未納問題がちゃらになるわけではないのですから、誤解を広めるだけでは
- > ないかと。

まあ、そうだけどね。でも、そういう問題以前にだなぁっということで、僕が出した返事。

2005年7月22日の両院合同会議の時に、小宮山洋子さんが、所得のない人はゼロ円保険料を払う形になりますと発言したときから、民主党の案は、保険方式になったわけだ。

となれば、未納は起こりうる。

そこで、民主党は、歳入庁にすれば、未納は起こらないと言うようになる。  
ところが、それは大間違い。

でっ、僕のHPにアップしている「[新たな選択迫られる年金制度——必要な改革とは何かを中心に](#)」（『週刊年金実務』平成23年1月3・10日合併号）のなかで、長妻前厚労大臣の顧問さんは、「税務署の強面の人が取りに行けば、それなりの迫力はある」と言って、坂本さんと江口さんから失笑を買う。

彼からの返事

- > ポンチ絵つくって、後付けで解釈していくからややこしいことに（笑）。
- > 与謝野さんがさっき、支給開始年齢の引き上げに言及しました。また一仕事です…

大変よのお。実際のところ、いま、何を報道したって、何の意味もないんだけどね。まあ、何のニュースもないから、何の意味もないことでも書かなきゃいかんのだろうけどね

え。。。でっ、各紙、かつて年金を勉強した記者は、もう、デスクや論説委員になったり他の部署に行ったりして、いま年金記事を書いている人はあんまり基礎ができていない人たちみたいだから（記事を見れば、記者がいかにも分かっていないことが分かる）、先輩たちでちゃんとみてやっておいて下さいな。

ところで、今の厚労副大臣、小宮山さんの発言をアップしておきますね——自分で嫌になるほど、みんなが忘れてほしいことを覚えているんだよねえ(T\_T)トホッ。ごめんなさいねえ。ついでだから、小宮山さんの発言に対する、伊吹さんの発言も紹介しておきます。

○小宮山議員 先ほど御説明申し上げたつもりなのですが、御理解がなかなかいただけないようなので、さらにもう少し説明をさせていただきたいと思います。

私たちは、払っていない人に最低保障年金をとという考え方はとっていない。だけれども、そこは理屈の問題といえましょうか、所得がなければゼロ円という形で保険料を納付するという形をとっております。

先ほどモラルハザードにならないというところで御説明をしたように、最低保障年金というのは、公的年金制度に加入することを前提に給付されているので、その年齢に達したらすべての人に渡すというものではありません。みずからの所得を正確に申告して、その所得に応じた保険料を納付するということを大前提としております。

それで、先ほど申し上げたように、国税庁と社会保険庁を統合した機関が徴収をするということですから、この年金保険料は今で言う税に極めて近い性格を持つことになると思います。納税者番号制度を導入することも想定していますので、被保険者の所得の把握ということは極めて確度の高いものになると考えています。

そうした中で、所得があれば当然その所得に応じて払う、所得がなければゼロ円という形で保険料を納付する。そのことによって、高齢期に年金を受給する権利を持っている人が、原則として、すべての国民が適正な権利として獲得できるものを受けるという考え方をとっております。

例として、先ほど自営業者の話をちょっといたしましたけれども、自営業者の国民年金第一号被保険者、これが五百十一万人いるのに対しまして、自営業者の納税者は二百万人となっています。ですから、そういう意味で、自営業者の多くは納税をしていない。これは所得がないというふうに考えられますので、そのところの考え方で、所得のない人はゼロ円を納付するという考え方に基づいていますので、所得のある人が払わないのにもらえる、そういう形では決してございません。

○伊吹議員　ゼロという形で保険料を払う義務を果たすということですから、大体の形は我々の考えているものとはそう変わらないように思います。

そうすると、問題は、歳入庁というものをつくれれば所得が把握できるかできないか、ここにかかってきますね。つまり、ゼロという保険料を払ったというバーチャルな世界をつくると、確かに理屈の上では非常にきれいに説明できると思います。問題は、形式上はゼロなんだけれども、果たして実際にゼロであるかどうかということが大きな社会公正上の問題なんですね。

歳入庁というものをつくれればすべてが解決できるかどうかは、これはぜひ枝野先生、長勢先生初め幹事の方々が一度徴税の専門家の意見を聞いて、できるかどうか。つまり、納税番号をつければ、金融所得、不動産所得は把握できるんですよ。ただ問題は、事業所得は、納税番号があるところでも、みんな申告制と調査が前提になっている。サラリーマンの場合は源泉徴収ですから、ほとんどのものが把握されている。

だから、歳入庁というものをつくって、そして、徴税費用をどの程度かけるのか、毎日毎日の程度中小企業に調査を入れるのか、こういうことを含めてフィージブルであれば、今の小宮山先生のお話というのは私は傾聴に値すると思いますから、ぜひ、その前提がフィージブルなのか、実現可能性があるのかを一度ここで議論させていただいたらいいかと思います。

このあたりは、2007年10月14日に社会政策学会で僕が報告した論文、37頁に書いてありますので、ご参照を。

- [「年金騒動の政治経済学——政争の具としての年金論争トピックと真の改善を待つ年金問題との乖離」](#)【特集 社会保障改革の政治経済学 社会政策学会第115回大会共通論題】『社会政策学会誌 社会政策』

この時の両院合同会議を、後に、小宮山さんは、次のように評することになる。

ホームページ 2010年12月2日の書き込み

履修者さんへ——一昨日、経済財政担当大臣の「その場しのぎのでまかせ」を書いたけど、次の議事録は、「その場しのぎのでまかせ」のオンパレード！ 必読だ。これを読めば年金論議だけでなく、世の中ってのはどんなものか、いろんなことが分かる。

- [年金制度をはじめとする社会保障制度改革に関する両院合同会議の会議録議事情](#)

## [報一覧](#)

9月に菅さんが代表選に勝った翌朝だったかのフジテレビ『とくダネ』に出演した小宮山洋子さん@現厚労副大臣は、かつて与野党で年金を協議したことがあったんですけど、当時の与党が自分たちの年金案にこだわって話し合いができなかったと言っていた。さて、この小宮山仮説を支持できるかどうか、君らは、議事録を読んで検証することだ。権力を握るってことは情報源を押さえることになるわけだから、別に驚く話ではないんだけど、君らには世の中ってものを知る上で勉強になると思うよ。

おまけ其の壱

民主党の年金論を知るためには、2005年の両院合同会議を読むしか方法はなかったのに、年金論者のみんなが、この両院合同会議の存在さえ知らなかったという、笑えない笑話が入っているのは、次の文章 54-55 頁。

- [「政策技術学としての経済学を求めて——分配、再分配問題を扱う研究者が見てきた世界」](#) 『at プラス』 2009年8月号

おまけ其の弐

この文章を書くきっかけとなったのは、1月20日のホームページへの次の書き込みだな。

朝日新聞も毎日新聞も、いじわるよのお、分かってるくせに（笑）。まあ、「政府案は、現行制度と大差ない、与野党協議のたたき台に十分なり得るものだ」、なあって方向に「年金の政治方針」を変節する前に、彼らの年金政治の正体を見抜いていたみなさんからみたら、年金を政争の具として弄んできたバカどもにはふざけるなど言いたくなるわな。

- [朝日新聞](#)
- [毎日新聞](#)

次の読売新聞の件に関して、僕が問われた回答は——アイデア作りはとうの昔に終わっているんだから、いま必要なことは力。人間社会における権力生産関数の中で今回の件の偏微係数が正なのか負なのか、よくわからんな。よほどの僥倖が重ならない限り正にはなるまいな。ちなみに、僕のI巻の1章には、権力生産関数とか圧力関数というような概念が、いっぱい出てくる。。。

- [読売新聞](#)

ああ、履修者は、もう課題ではないけど、I巻の1章「再分配政策の政治経済学序論」は目を通して置いて下さい。初出の論文は、15年くらい前に書いたものだけど、僕の考え方の基本、僕の経済学観が分かると思います。旧図書館の2階にリザーブブックとして入ってます。それとII巻の3章「積極的社会保障政策と日本の歴史の転換」もかな。講義では、そこまでいかんかったもので。まあ、随所にその話は入っていたけどな。昨日、来年の講義要項を提出したけど、今年と同じだな（笑）。慶應には、こんな、訳の分からん講義要項を書くのを、ひとりぐらい許容してもらおうかね。。

おまけ

玄葉戦略相、年金改革「民主の考えは保険料が軸」 2011/1/20 13:44

玄葉光一郎国家戦略相（民主党政調会長）は20日午後、都内で講演し、年金改革について「民主党の考え方はかつては基礎年金を全額税とする方式だったが、数年前からは社会保険料の所得比例年金を軸に『補足年金』として最低保障年金をつけるもので、『社会保険料方式』と呼んだ方が正しい」と強調した。

そのうえで「与野党で合意を得るには民主党の考え方は十分ベースになり得る案だ。与野党が将来世代のことだけを考えて向き合えば必ず成案を得られる」との期待を表明した。

〔日経QUICKニュース〕